

Annual Report
of Kansai Kyoiku Gakkai
No. 45

関西教育学会年報

通巻第45号

Kansai Kyoiku Gakkai

2021

関西教育学会

2021

小学校裁縫専科正教員無試験検定（一部試験）

教科試験問題の分析

—1930年代における京都府を事例として—

美作大学 遠藤健治

はじめに

戦前京都府においては、無試験検定により、その修学歴に応じた三つの小学校教員免許状の取得ルートが存在した。そのうちの 하나가、高等女学校（類する各種学校を含む）補習科および同等とみなされた実業学校を卒業し、小学校裁縫専科正教員（以下、小裁専正）免許状を取得するルート；すなわち無試験検定（一部試験）であった。本稿は、これをふまえ、1930年代の京都府において実施された無試験検定（一部試験）教科試験問題を分析する。これにより、「学校単位でその卒業生に無試験検定（一部試験）の受験資格が付与された学校」¹すなわち「小学校教員無試験検定（一部試験）認定校」（以下、認定校）卒業生に求められた小学校教員としての「教養」を解明することを目的としている。そして、後述するように認定校の多くが私立学校であったことに照らし、これまで等閑に付されてきた私立学校による無試験検定（一部試験）をとおした小学校教員の養成にも目を向け、戦前日本における多様な小学校教員の輩出経路を探り、「出自（取得方法）と種別（免許種別）を異にする多様で雑多な者から構成され、そうした者たちの同居性という点にこそ特徴があった」²と言われる小学校教員界が果たしていかなる「教養」を具えた者により構成されたのかを展望したい。

1、無試験検定（一部試験）教科の実施内容

うへの課題をみるにあたり、あらかじめ、無試験検定（一部試験）教科の実施内容を概観していこう。

無試験検定（一部試験）による小裁専正免許状取得者は、すでに1920年代より認められた。その可否判定は、「（出願者の卒業学校から提出された……引用者）成績表中、修身、教育、裁縫ノ三科目」³の平均点によった。そして、1933（昭和8）年、あわせて一部試験が導入された。その試験科目は、教育大意、裁縫理論の2科目であった。

では、無試験検定（一部試験）のうち、教育大意すなわち教科の実施内容とは、いかなるものであったのか。表1は、1933（昭和8）年以降、合計7回のその概要を整理している。

なお、1935（昭和10）年第2回は、事務手続き上の都合から、菊花高等女学校補習科卒業生のみが対象であった。

さて、これによれば、実施月日が毎年2月、ないし3月であったことがわかる。実施場所は、当初各認定校であり、次第に京都府師範学校に固定された。問題作成者は、京都府小学校教員検定委員会「常任委員及委員長ノ指名シタル者」⁴であり、具体的には京都府女子師範学校、府立桃山高等女学校教員⁵が中心となった。試験時間は、一貫して1時間であった。例年問題数はほぼ2問、最高点は80点以上、最低点は0点から30点のうちの、平均点はおよそ50点台を推移した。受検者数は、1935（昭和10）年第2回を除き、およそ100名から200名のうちを推移した。

なお、認定校のうちの多数が私立学校であったことは前述した。それは、表1からも確認される。また、受検者数においても私立学校卒業生が公立学校卒業生を圧倒した⁶ことから、無試験検定（一部試験）は主に私立学校卒業生を対象とした小裁専正免許状取得のためのルートとして機能したことがわかる。

表1 小裁専正無試験検定（一部試験）教育科の実施概要

	1933年	1934年	1935年第1回	1935年第2回
実施月日	2月9日	3月不明	3月5日	3月20日
実施場所	各認定校	不明	京都府師範学校	菊花高等女学校
問題作成者	北村金三郎、渡辺昌司	不明	渡辺昌司	北村金三郎
試験時間	1時間	1時間	1時間	1時間
問題数	3問	2問	2問	2問
最高点	65点	88点	80点	80点
最低点	15点	0点	20点	30点
平均点	55.8点	56.2点	51.5点	55.7点
受検者数	102名	182名	127名	14名
認定校名	華頂高女補習科 京都高女補習科 菊花高女補習科 京都高女補習科 京都高女補習科 成安女子学院高女部補習科 京都高等手芸女学校裁縫専攻科	府立第一高女補習科 府立第二高女補習科 華頂高女補習科 京都高女補習科 菊花高女補習科 成安女子学院高女部補習科 京都高等手芸女学校裁縫専攻科	府立第一高女補習科 府立第二高女補習科 華頂高女補習科 京都高女補習科 京都高女補習科 成安女子学院高女部補習科 京都高等手芸女学校裁縫専攻科	菊花高女補習科
実施月日	3月18日	3月17日	3月2日	
実施場所	京都府師範学校	京都府師範学校	京都府師範学校	
問題作成者	中村金一	中村金一	杉浦正一	
試験時間	1時間	1時間	1時間	
問題数	2問	2問	2問	
最高点	80点	80点	85点	
最低点	0点	0点	20点	
平均点	50.5点	44.6点	55.1点	
受検者数	107名	96名	110名	
認定校名	府立第一高女補習科 府立第二高女補習科 華頂高女補習科 京都高女補習科 京都高女補習科 菊花高女補習科 成安女子学院高女部補習科 成安女子学院高女部補習科 京都高等手芸女学校裁縫専攻科 京都高等手芸女学校裁縫専攻科 京都高等技芸女学校師範科	府立第一高女補習科 府立第二高女補習科 市立二条高女補習科 京都高女補習科 京都高女補習科 京都高女補習科 成安女子学院高女部補習科 京都高等手芸女学校裁縫専攻科 京都高等手芸女学校裁縫専攻科 京都高等技芸女学校師範科	府立第一高女補習科 府立第二高女補習科 府立福加山高女補習科 市立二条高女補習科 京都高女補習科 京都高女補習科 菊花高女補習科 成安女子学院高女部補習科 京都高等手芸女学校裁縫専攻科 京都高等技芸女学校師範科	

【注】「幼稚園保母無試験検定二因スル件」（京都府立京都学・庶務部所蔵、『小学校教員、幼稚園保母検定及免許青年訓練所』請求番号昭10-0060）、「姓名不明」（京都府立京都学・庶務部所蔵、『小学校教員、幼稚園保母検定及免許青年訓練所』請求番号昭10-0060）、「小学校教員幼稚園保母免許状授与ノ件」（京都府立京都学・庶務部所蔵、『検定及免許』請求番号昭12-0090-008）、「小学校教員幼稚園保母免許状授与二因スル件」（京都府立京都学・庶務部所蔵、『検定及免許』請求番号昭11-0051-002）、「小学校教員並幼稚園保母免許状授与二因スル件」（京都府立京都学・庶務部所蔵、『検定及免許』請求番号昭12-0090-005）、「小学校教員並幼稚園保母免許状授与二因スル件」（京都府立京都学・庶務部所蔵、『教員検定』請求番号昭14-0083-002）より作成。

2. 無試験検定（一部試験）教育科の出題範囲および出題内容

では、無試験検定（一部試験）教育科の出題範囲および出題内容は、いかなるものであったのか。

表2は、その出題範囲を推定し、そこにさきの合計7回の出題内容を反映したものである。なお、うえに「推定」としたのは、無試験検定（一部試験）教育科の出題範囲を探るにあたり、しかしその受験参考書が定められず、小裁専正免許状の取得を目的とする試験検定教育科の受験参考書である小川正行、佐藤熊次郎、篠原助市共著『普通教育学』（宝文館蔵版、1913年）を参照したことによる。これによれば、出題内容が「教授論」と「訓練論」に集中し、両者から毎年ほぼ1問ずつ出題されたことがわかる。そして、1935（昭和10）年第1回と第2回を境に出題傾向が変化したこともわかる。そこで、1933（昭和8）年から1935（昭和10）年第1回までを前期、1935（昭和10）年第2回から1939（昭和14）年までを後期とし、それぞれの「教授論」と「訓練論」の出題内容をみることにしよう。

(1) 前期教育科の出題内容

①「教授論」の出題内容

まず、前期教育科の出題内容についてである。さきに、「教授論」の出題内容からみることにしよう。ここでは、「形式陶冶」「教授の目的」「教授の方法」から分散されて出題されたことがわかる。具体的に「形式陶冶」については「教授の一任務たる形式的陶冶とは如何なることか（1933年）」⁷、「教授の目的」については「教授の三方面に就て論述せよ（1934年）」⁸、「教授の方法」については「教授段階に於ける予備段の任務を問ふ（1935年第1回）」⁹といった出題がなされた。

②「訓練論」の出題内容

つづいて、「訓練論」の出題内容をみることにしよう。ここでは、「命令禁止」「作業」「遊戯」といった「訓練の方法」のみから出題されたことがわかる。具体的には「命令禁止に関する注意を問ふ（1933年）」¹⁰、「作業の性質及び種類を明かにし、其の注意を述べよ（1934年）」¹¹といった出題がなされた。

(2) 後期教育科の出題内容

①「教授論」の出題内容

つぎに、後期教育科の出題内容についてである。ここでもさきに、「教授論」の出題内容からみることにしよう。ここでは、「教授の材料」からの出題もあるが、その他は「教授の方法と児童の自発活動」から出題されたことがわかる。具体的に「教授の材料」については「教材相互ノ連絡統合ニ就キテ記セ（1936年）」¹²、「教授の方法と児童の自発活動」については「教授上児童の自己活動を重視する理由如何（1939年）」¹³といった出題がなされた。

②「訓練論」の出題内容

つづいて、「訓練論」の出題内容をみることにしよう。ここでは、「訓練の目的」からの出題もあるが、「訓練と習慣」「訓練の方法」から分散されて出題されたことがわかる。具体的に「訓練と習慣」については「訓練上の自由主義を批判せよ(1935年第2回)」¹⁴、「訓練の方法」については「遊戯ノ訓練上ニ於ケル価値ヲ列記セヨ(1937年)」¹⁵といった出題がなされた。

なお、前期、後期を問わず、ほぼ同一の問題も出題された。具体的には「訓練ノ方針ニ就キテ述ベヨ(1936年)」¹⁶と「訓練の方針に関して論述せよ(1939年)」¹⁷などが、それに該当する。

おわりに

以上、本稿による考察の結果、無試験検定(一部試験)をとおして認定校卒業生に求められた小学校教員としての「教養」とは、「教授論」および「訓練論」への精通であったことが明らかとなった。しかし、出題内容を詳細にみるならば、それを前期と後期に分けることができるように、そこには変化も認められる。つまり、同じ「教授論」および「訓練論」への精通が求められたにせよ、その内容は時代を追うにつれて変遷を遂げたのである。果たして、それは、いかなる理由によるのか。それは、問題作成者の専門性などによると推測されるが、現時点においては、史料的な制約のために判然としない。こうした残された課題は、今後、本稿が検討対象とした無試験検定(一部試験)と同様に実施された臨時試験検定における教科試験問題の分析にも取り組むことにより、解明をめざしたい。

表2 無試験検定(一部試験)教科の出題範囲および出題内容

出題範囲	出題内容						
	1933年	1934年	1935年 第1回	1935年 第2回	1936年	1937年	1939年
教育の意義、効果							
小学校教育などの目的							
養護論							
教授の目的		○					
教授の材料					○		
形式的陶冶	○	○					
教授の方法			○				
教授の方法と児童の							
発達				○			○
自学活動						○	○
学習成績の考査及び							
修業・卒業の認定							
訓練の目的							
訓練と感化教育							
訓練と習慣				○	○		○
訓練と個性							
訓練上より見たる家庭							
社会及び学校の地位							
訓練の方法	○	○	○			○	
旅行遊学							
教育考							
小学校以外の教育機関							
合計	3	2	2	2	2	2	2

【註】「幼稚園保母無試験検定ニ関スル件」(京都府立京都学・歴史館所蔵、『小学校教員、幼稚園保母検定及免許青年訓練所』請求番号昭10-0060)、「(件名不明)」(京都府立京都学・歴史館所蔵、『小学校教員、幼稚園保母検定及免許青年訓練所』請求番号昭10-0060)、「小学校教員幼稚園保母免許状授与ノ件」(京都府立京都学・歴史館所蔵、『検定及免許』請求番号昭12-0090-008)、「小学校教員幼稚園保母免許状授与ニ関スル件」(京都府立京都学・歴史館所蔵、『検定及免許』請求番号昭11-0061-002)、「小学校教員並幼稚園保母免許状授与ニ関スル件」(京都府立京都学・歴史館所蔵、『検定及免許』請求番号昭12-0090-005)、「小学校教員並幼稚園保母免許状授与ニ関スル件」(京都府立京都学・歴史館所蔵、『教員検定』請求番号昭14-0063-002)より作成。

「検定認定校」の全国的動向」(日本教育学会第76回大会ラウンドテーブルP配付資料)、2017年を参考とした。

- 笠間賢二「小学校教員無試験検定研究の課題」(『宮城教育大学紀要』51、2017年)154頁。
- 「小学校教員免許状授与ノ件」(京都府立京都学・歴史館所蔵、『小学校教員、幼稚園保母検定及免許』請求番号昭08-0056-001)。
- 「幼稚園保母無試験検定ニ関スル件」(京都府立京都学・歴史館所蔵、『小学校教員、幼稚園保母検定及免許青年訓練所』請求番号昭10-0060)。
- たとえば中村幸一は、京都府女子師範学校、府立桃山高等女学校教員を歴任した。
- 合計7回の無試験検定(一部試験)受検者のうち、公立学校卒業生は192名、私立学校卒業生は563名であった。
- 前掲註4、「幼稚園保母無試験検定ニ関スル件」。
- 同前。
- 「小学校教員、幼稚園保母免許状授与ノ件」(京都府立京都学・歴史館所蔵、『検定及免許』請求番号昭12-0090-008)。
- 前掲註4、「幼稚園保母無試験検定ニ関スル件」。
- 同前。
- 「小学校教員幼稚園保母免許状授与ニ関スル件」(京都府立京都学・歴史館所蔵、『検定及免許』請求番号昭11-0061-002)。
- 「小学教員並幼稚園保母免許状授与ニ関スル件」(京都府立京都学・歴史館所蔵、『教員検定』請求番号昭14-0083-002)。
- 前掲註9、「小学校教員、幼稚園保母免許状授与ノ件」。
- 「小学校教員並幼稚園保母免許状授与ニ関スル件」(京都府立京都学・歴史館所蔵、『検定及免許』請求番号昭12-0090-005)。
- 前掲註12、「小学校教員幼稚園保母免許状授与ニ関スル件」。
- 前掲註13、「小学教員並幼稚園保母免許状授与ニ関スル件」。

(謝辞)

本研究は、JSPS 科研費 JP19K02412 の助成を受けたものである。

註

1 本稿における無試験検定(一部試験)認定校の定義は、井上恵美子「『小学校教員無試